

# 平成27年度 学校関係者評価

## 学校自己評価システムシート

### (熊谷市立妻沼南小学校)

目指す学校像	「みんな仲良く」「なんでも頑張り」「みずから学ぶ子」を学校・家庭・地域の連携のもとに追求する学校
--------	--

重点目標	1 児童一人一人に基礎基本を確実に身につけさせ、自ら学び、よりよく問題を解決する能力を育成する。 2 人とのかかわりを大切に、「思いやりの心」を育成する。 3 個々の体力の向上を図り、生涯にわたって運動する児童を育成するとともに、安全意識の高揚を図る。 4 快適で意欲を高める環境づくりに努めるとともに、保護者や地域社会との相互理解を深める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (9割以上)
	B	概ね達成 (8割以上)
	C	変化の兆し (6割以上)
	D	不十分 (6割未満)

出席者	学校関係者	4名
	事務局(教職員)	2名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(2月19日現在)			実施日 平成28年2月19日	
現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
みんな仲良く	豊かな心の育成 場に応じた言葉づかい	①縦割り活動(週1回)、集会、学校行事を通して、お互いを尊重できる子を育成する。(90%) ②道徳教育、学級活動の授業、「ふわふわ言葉」の作成と掲示	①職員・保護者のアンケートで、「できている」と感じているか。 ②道徳教育、学級活動の授業を充実し、思いやりのある言葉を使える子を100%にする。	①職員 83% 保護者 99% 縦割り活動 28回実施 ②職員 68% 保護者 72% 「ふわふわ言葉」の作成と掲示を実施	A C	○小規模校の特色で継続して取り組む ○教師の見守り、見届け ○児童への振り返りの実施。継続的な声かけの実施 ○ふわふわ言葉の作成と掲示継続	・小規模校で、先生方が子供たちみんなの名前を知っているのはよい。また、子供たち同志も知っていて、アットホームな雰囲気がある。 ・小規模校で、先生の目が行き届いている。地域の方も南小はいい学校だと思っている。	
なんでも頑張り	基礎体力の向上 清掃活動の充実	①低・中・高学年ブロック体育を充実し、体育好きな子を100%にする。 ②合同体育の継続、スポーツタイムの充実を図り、業間運動の目標を達成を100%にする。 ③清掃指導を工夫し、学校をきれいにする。(掃除の仕方集会、反省カード、掃除チャンピオン)	①職員・保護者のアンケートで、「できている」と感じているか。 ②新体力テストは、県の平均よりも上回る項目 80% ③職員・保護者のアンケートで、「できている」と感じているか。	①職員 80% 保護者 86% ②県の平均よりも上回る項目 74% (男子 36/48 女子 35/48) ③職員 64% 保護者 79% 「うちの子はこんなに輝いていました」10号発行	B A C	○ブロック体育の見直し(運動量の確保) ○体育授業の充実(準備運動での弱い部位の強化) ○スポーツタイムの充実(サーキットコース設定) ○無言清掃の実施 ○「うちの子はこんなに輝いていました」の発行継続	・先生方が意識して外遊びを奨励してるのはよいことだと思う。 ・家庭での経験が乏しいので、学校でしっかりと指導することが大事だと思う。	
みずから学ぶ子	学習の基礎基本の定着 学習規律の確立 読書活動の推進	①学ぶ楽しさのある学習活動を設定し、学習意欲を喚起する。 ②南小ステップを活用し、職員の共通理解を図り、学習の準備・発表の仕方・姿勢等100%にする。 ③読書カードを工夫し、マイチャレンジゴールを達成させる。	①体験的な学習を各学年に設定できたか。 ②職員・保護者のアンケートで、「できている」と感じているか。 ③低学年 100冊、高学年 5000頁を達成できた児童が80%となったか。	①サイエンスショー、路線バスでの社会科見学、生活科・総合学習での町探検。落語鑑賞会、音楽鑑賞会、夢と心を育む事業等。 ②学習規律 職員 72% 保護者 78% 姿勢 職員 64% 保護者 59% ③低学年 100冊 } 75% 高学年 5000頁	A C A	○授業参観後のふれあいお楽しみ会の充実 ○各種事業への積極的参加を促す ○南小ステップの共通理解と共通行動の徹底 ○家庭と連携し、100%達成を目指す	・様々な経験は必要である。子供たちの意欲にもつながるので充実させて欲しい。 ・学習の規律や姿勢は大事なことだと思う。全職員で一丸となって取り組んで欲しい。 ・マイチャレンジゴールのように、目標をもって努力していく取り組みを続けて欲しい。	
保護者・地域との連携	校内・校外でのあいさつの励行 4つの実践3減運動の推進	①代表委員によるあいさつ運動の推進・あいさつカード等の活用。 ②家庭学習ができる子100%にする。(15分×学年)	①登下校時スクールガードさんや来校者へのあいさつ100% ②職員・保護者のアンケートで、「できている」と感じているか	①職員 70% 保護者 81% 毎週代表委員があいさつ運動(あいさつレンジャー) ②職員 77% 保護者 75%	C C	○あいさつレンジャーの活用 ○継続指導(教師が手本となって) ○家庭学習の方法を指導	・校内ではよくあいさつができるが校外ではできない。できる子とできない子の差が大きい。大人が手本となるようにしたい。 ・スクールガードさんは色々な意味で抑止力になっている。 ・得意、不得意があるので宿題の量は難しい。家庭の協力が必要だと思う。子供にはゲームを持たせない方がよいと思う。	